

平成 17 年 9 月 1 日

J A R I P 会員各位

日本保険・年金リスク学会  
研究会担当理事  
坂本純一・栗山晃

### J A R I P 平成 17 年度第 2 回研究会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、日本保険・年金リスク学会（J A R I P）では会員の研鑽のため、重要なテーマについてより深く研究討議を行う研究会を実施しております。

平成 17 年度第 2 回の研究会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今回は、ABN AMRO アセットマネジメント株式会社のオスカー・フォルダー氏からオランダの年金制度の現状と今後の課題について報告していただきます。DB 制度では剰余金を大事にする運営となることから、社会全体の観点からはリスクも小さく効率的な装置となるとしたオランダ諮問機関のレポートの紹介も予定されております。

会員各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

なお今回の研究会は日本語で行われます。宜しくお願い申し上げます。

敬具

#### 記

##### 1. 第 2 回研究会

日時：平成 17 年（2005 年）9 月 21 日（水）3 時から 5 時 30 分

場所：朝日生命会議室

（地下鉄大手町駅または JR 東京駅下車、徒歩 5 分）

（別紙 周辺地図をご参照下さい）

講師：OSCAR VOLDER 氏（ABN AMRO アセットマネジメント株式会社）

（別紙 オスカー・フォルダー氏の略歴をご参照ください）

#### テーマ：「オランダの年金制度：現状およびトレンド」

講演の概要：オランダの年金制度のうち、第 1 ピラーの国の制度（AOW: 一般老後法）についての現状と高齢化への対策、第 2 ピラーの企業年金についての概要と ALM 分析、06 年に導入予定の年金財政規制変更の内容、年金基金運営上の重要テーマと対応策などにつき、年金基金の具体的な対応事例も含め、紹介する。

さらに、オランダの内閣政策のための科学的諮問会（WRR）が 2000 年 9 月に発表した「年金第 2 ピラーにおける世代間の連帯および個性」レポートの内容についても触れる予定。  
（社会全体の観点から DC 年金に代表される個人運営による年金制度よりも DB 制度に代表される共同運営による年金制度の方が、社会全体として効率的な装置であることを計量分析に基づいて根拠づけたレポート）

## 2．参加申込

参加希望者のお名前・所属組織名・E - メールアドレス・電話番号に加え、「第 2 回研究会への参加申込」と明記の上、E - メールにて

To : [office@jarip.org](mailto:office@jarip.org)（日本保険・年金リスク学会事務局 担当：中村祐子）

cc : [kuriyama\\_akira@mail.asahi-life.co.jp](mailto:kuriyama_akira@mail.asahi-life.co.jp)（同研究会担当：栗山晃）

迄お申込ください。参加申込は 9 月 1 5 日（木）迄とさせていただきます。

## 3．参加費

研究会の参加費は無料ですが、資料代などの実費をカバーするため、会場にて 1000 円程度のカンパをお願いしております。趣旨ご高配の上、ご協力いただけますよう宜しくお願い申し上げます。またカンパの趣旨から領収書の発行は行っておりません、ご了承いただきたくお願い申し上げます。

以上